

羊蹄山遭難(1999年9月)

ツアー登山運行ガイドラインが制定されるきっかけとなった遭難事例。ツアーガイド1名と参加者14名が登山。8合目までに参加者3名が引き返す。残りの参加者のうち4名が遅れる。このうち3名が日帰り下山できず頂上付近でビバーク。うち2名が亡くなり、1名が生還した。



解説

ツアーガイド1名で14名を引率。そもそもガイドが少ない。また、気象条件も台風が接近して山頂では風速26mの風が吹いていた。引率の状況も登りでコースタイム6時間のところ4時間で登頂している。平均年齢55歳以上のツアーにしては異常に速いペースだ。当然、チームはバラバラになり遅い者を取り残される状況に陥った。

最後尾の2名が道に迷って違う道を下っているところをたまたま、最後尾3番目の方が見つけ、正しい道に誘導するも、強風と濃霧で9合目へ行くことができない。「頂上へ行けばツアーガイドがいるかもしれない」という淡い期待で頂上へ向かうも最後尾の2名は体力が無くなり動けない。最後尾3番目の方が頂上へ行くもそこには誰もいない。15:30頃やむを得ず岩陰でビバークするも最後尾2名が亡くなった。

ツアーガイドは下山して初めて3名がいなくなりに気づく。救助要請をし、翌日に最後尾3番目の方を発見した。ツアーガイド登山で刑事責任を追及された全国初めての事例となり、ツアー登山運行ガイドラインが制定されるきっかけとなった。

私は、リーダーとして山に行く機会が多い。最もしてはいけない行動はチームがバラバラになることだ。これからも肝に銘じたい。